ひとやすみ

見比べてみよう　～二つの「新板 娘庭訓出世双六」～

当館では「新板 娘庭訓出世双六」という名の双六を二種類所蔵しています（出品資料 7. 8.）。この二つの双六を見比べてみると多くの共通点を見出すことができ、この種の双六が形を変えながら人々に親しまれたことがわかります。

（翻刻：東京学芸大学附属図書館　双六・往来物研究会）

7．和泉屋版

[し]んはんむすめていきんしゆせすごろく

新板 娘庭訓出世雙六

東都渓齋英泉画
江戸芝神明前三嶌町
㊫和泉屋市兵衛板

おつぼね
一 おつぼねをさがり　手ならひ
　しせう
三 しあはせ　わるく　のりや〳〵
五 人からもかくべつ　二度めのこ
　しんぞ

御しんぞう
一 しうとめ
二 はつち
三 らくゑん　きよ
四 おはり　さん
五 はりいしや　六 のりうり

おうばどん
一 たび〳〵　のさんに　なれて　と
　りあげ
四 のりや〳〵
六 子をたいせつにして　ごしんぞ
　になる

やまのかみ
二 女のくせに大酒のみ　さけのう
　へわるく　のちは　はつちぼうず
四 ていしゆと　てん〳〵かせぎ
　とりあげ
六 きちがひじみた　かんしやくも
　ちてうど　やりて　まつてこい

きむすめ
一 きりやう　のぞみで　花よめ
二 よき人の　目に　かゝり　おめし
　つかひ
五 よき名んだんで　女房

花よめ
一 いつか　しうとめ
三 としとつて　手ならひしせう
五 りはつものゆへ　ごしんぞ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
一 うちなにて玉のこし　ご
　しんぞう　ちよつと　子もり
二 うられたさきで　出世し
　てたゆう

おうばどん
一 子をたいせつにして　こ
　しんぞに　なる
六 たこくへ　ゆきて　めし
　もり

ごぜ
この　ところは　でる事　な
らず

はつち
このところはでることならず
いすはりなり　されども　そ
だてた娘が　しゆせしてら
くいんきよ様よりこうりよく
うける

たゆう
二 ぶけへうけだされ　おめ
　しつかひ
六 まゑのほうへ　ゆき
　女房となる
三 おつぼねほうこう

しうとめ
三 よめやむすこをいひり出
　して　はつち〳〵
五 こゝろだてよく　らくゑ
　んきよ

きむすめ
一 きりやうよく花よめ
二 よき名んで女房
三 よき人の目にかゝりおめ
　しつかひ

ふり出し　金網屋板
一 きむすめ
二 子もり
三 女房
四 めしもり女
五 やり手
六 おうばどん

おつぼね
一 おつぼねをさがり　手ならひ
　しせう
三 しあはせ　わるく　のりや〳〵
五 人からもかくべつ　二度めのこ
　しんぞ

御しんぞう
一 しうとめ
二 はつち
三 らくゑん　きよ
四 おはり　さん
五 はりいしや　六 のりうり

おうばどん
一 たび〳〵　のさんに　なれて　と
　りあげ
四 のりや〳〵
六 子をたいせつにして　ごしんぞ
　になる

やまのかみ
二 女のくせに大酒のみ　さけのう
　へわるく　のちは　はつちぼうず
四 ていしゆと　てん〳〵かせぎ
　とりあげ
六 きちがひじみた　かんしやくも
　ちてうど　やりて　まつてこい

きむすめ
一 きりやう　のぞみで　花よめ
二 よき人の　目に　かゝり　おめし
　つかひ
五 よき名んだんで　女房

花よめ
一 いつか　しうとめ
三 としとつて　手ならひしせう
五 りはつものゆへ　ごしんぞ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

おすゑ
一 ほうこうの　むかしこひしき山
　のかみ
三 どういふ　いんねんでか　ちや
　屋をんな
五 おめにとまつて　すぐに　中ろ
　う

おめしつかひ
二 とこひさしくつとめておつぼ
　ね
四 こゝろだてがわるくつて　はつ
　ちぼうず
六 よいおゑをもつてらくゑんき
　よ

お中老
一 しゆびよくおいとまをいたゞ
　き　おいりやさまへ　花よめ
二 出世しておつぼね
五 こしんぞ
六 らくゑんきよ

上り

はつち
このところは　でることならず
いすはり　なりされども
しまひ　には　そだ　てた
むすめが　しゆつせして
らくゑんきよさまより
こうりよくをうける

手習師匠
二 はりいしやにはましだが　おは
　りさん
四 おつぼねほうこう
六 ちやのみともだちの女房

めしもり女
二 とこひさしくつとめてやりて
四 そうどくてごぜとなる
六 こゝろがけがわるくてはつち

おはり
二 ふしあはせではつちぼうず
三 こゝろだてがわるくてやりて
五 山のかみのくされゑん

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

しうとめ
一 よめやむすこをいひり出して
　はつち　りはつものゆへ　ごし
三 そんきものむちひで　とりあげ
五 こゝろだてよくらくゑんきよ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

ごぜ
このところは　でることならずめ
がふじゆうで　りやうちぎん　を
つかひ　おどり子へ　かへり　あらた
に　ふりだし　でなをし〳〵

のりうり
一 ごしが　まがつて　はつち〳〵
三 ゑんぐわな　めがつぶれて　こ
　ぜ
五 人にやつた子が　りつこんして
　おもひがけなく　らくゑんき
　よ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

おすゑ
一 ほうこうの　むかしこひしき山
　のかみ
三 どういふ　いんねんでか　ちや
　屋をんな
五 おめにとまつて　すぐに　中ろ
　う

おめしつかひ
二 とこひさしくつとめておつぼ
　ね
四 こゝろだてがわるくつて　はつ
　ちぼうず
六 よいおゑをもつてらくゑんき
　よ

お中老
一 しゆびよくおいとまをいたゞ
　き　おいりやさまへ　花よめ
二 出世しておつぼね
五 こしんぞ
六 らくゑんきよ

上り

はつち
このところは　でることならず
いすはり　なりされども
しまひ　には　そだ　てた
むすめが　しゆつせして
らくゑんきよさまより
こうりよくをうける

手習師匠
二 はりいしやにはましだが　おは
　りさん
四 おつぼねほうこう
六 ちやのみともだちの女房

めしもり女
二 とこひさしくつとめてやりて
四 そうどくてごぜとなる
六 こゝろがけがわるくてはつち

おはり
二 ふしあはせではつちぼうず
三 こゝろだてがわるくてやりて
五 山のかみのくされゑん

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

しうとめ
一 よめやむすこをいひり出して
　はつち　りはつものゆへ　ごし
三 そんきものむちひで　とりあげ
五 こゝろだてよくらくゑんきよ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

ごぜ
このところは　でることならずめ
がふじゆうで　りやうちぎん　を
つかひ　おどり子へ　かへり　あらた
に　ふりだし　でなをし〳〵

のりうり
一 ごしが　まがつて　はつち〳〵
三 ゑんぐわな　めがつぶれて　こ
　ぜ
五 人にやつた子が　りつこんして
　おもひがけなく　らくゑんき
　よ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
一 うちなにて玉のこし　ご
　しんぞう　ちよつと　子もり
二 うられたさきで　出世し
　てたゆう

おうばどん
一 子をたいせつにして　こ
　しんぞに　なる
六 たこくへ　ゆきて　めし
　もり

ごぜ
この　ところは　でる事　な
らず

はつち
このところはでることならず
いすはりなり　されども　そ
だてた娘が　しゆつせしてら
くいんきよ様よりこうりよく
うける

たゆう
二 ぶけへうけだされ　おめ
　しつかひ
六 まゑのほうへ　ゆき
　女房となる
三 おつぼねほうこう

しうとめ
三 よめやむすこをいひり出
　して　はつち〳〵
五 こゝろだてよく　らくゑ
　んきよ

きむすめ
一 きりやうよく花よめ
二 よき名んで女房
三 よき人の目にかゝりおめ
　しつかひ

ふり出し　金網屋板
一 きむすめ
二 子もり
三 女房
四 めしもり女
五 やり手
六 おうばどん

おつぼね
一 仕あわせよく　おめしつ
　かひ
二 はたらきてゆへ　おさん
　どん　こともすきて　子もり
四 こゝろたて　わるくやり
　手

御しんぞう
一 人にやつた子がりつしん
　しておもいがけなくらく
　みんきよ
三 こしかまがつて
　はつち〳〵
五 めがつぶれて　ごぜ

おうばどん
二 たび〳〵　のさんに　なれて　と
　りあげ
四 のりや〳〵
六 子をたいせつにして　ごしんぞ
　になる

やまのかみ
二 女のくせに大酒のみ　さけのう
　へわるく　のちは　はつちぼうず
四 ていしゆと　てん〳〵かせぎ
　とりあげ
六 きちがひじみた　かんしやくも
　ちてうど　やりて　まつてこい

きむすめ
一 きりやう　のぞみで　花よめ
二 よき人の　目に　かゝり　おめし
　つかひ
五 よき名んだんで　女房

花よめ
一 いつか　しうとめ
三 としとつて　手ならひしせう
五 りはつものゆへ　ごしんぞ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

おすゑ
一 ほうこうの　むかしこひしき山
　のかみ
三 どういふ　いんねんでか　ちや
　屋をんな
五 おめにとまつて　すぐに　中ろ
　う

おめしつかひ
二 とこひさしくつとめておつぼ
　ね
四 こゝろだてがわるくつて　はつ
　ちぼうず
六 よいおゑをもつてらくゑんき
　よ

お中老
一 しゆびよくおいとまをいたゞ
　き　おいりやさまへ　花よめ
二 出世しておつぼね
五 こしんぞ
六 らくゑんきよ

上り

はつち
このところは　でることならず
いすはり　なりされども
しまひ　には　そだ　てた
むすめが　しゆつせして
らくゑんきよさまより
こうりよくをうける

手習師匠
二 はりいしやにはましだが　おは
　りさん
四 おつぼねほうこう
六 ちやのみともだちの女房

めしもり女
二 とこひさしくつとめてやりて
四 そうどくてごぜとなる
六 こゝろがけがわるくてはつち

おはり
二 ふしあはせではつちぼうず
三 こゝろだてがわるくてやりて
五 山のかみのくされゑん

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

しうとめ
一 よめやむすこをいひり出して
　はつち　りはつものゆへ　ごし
三 そんきものむちひで　とりあげ
五 こゝろだてよくらくゑんきよ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

ごぜ
このところは　でることならずめ
がふじゆうで　りやうちぎん　を
つかひ　おどり子へ　かへり　あらた
に　ふりだし　でなをし〳〵

のりうり
一 ごしが　まがつて　はつち〳〵
三 ゑんぐわな　めがつぶれて　こ
　ぜ
五 人にやつた子が　りつこんして
　おもひがけなく　らくゑんき
　よ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
一 うちなにて玉のこし　ご
　しんぞう　ちよつと　子もり
二 うられたさきで　出世し
　てたゆう

おうばどん
一 子をたいせつにして　こ
　しんぞに　なる
六 たこくへ　ゆきて　めし
　もり

ごぜ
この　ところは　でる事　な
らず

はつち
このところはでることならず
いすはりなり　されども　そ
だてた娘が　しゆつせしてら
くいんきよ様よりこうりよく
うける

たゆう
二 ぶけへうけだされ　おめ
　しつかひ
六 まゑのほうへ　ゆき
　女房となる
三 おつぼねほうこう

しうとめ
三 よめやむすこをいひり出
　して　はつち〳〵
五 こゝろだてよく　らくゑ
　んきよ

きむすめ
一 きりやうよく花よめ
二 よき名んで女房
三 よき人の目にかゝりおめ
　しつかひ

ふり出し　金網屋板
一 きむすめ
二 子もり
三 女房
四 めしもり女
五 やり手
六 おうばどん

おつぼね
一 仕あわせよく　おめしつ
　かひ
二 はたらきてゆへ　おさん
　どん　こともすきて　子もり
四 こゝろたて　わるくやり
　手

御しんぞう
一 人にやつた子がりつしん
　しておもいがけなくらく
　みんきよ
三 こしかまがつて
　はつち〳〵
五 めがつぶれて　ごぜ

おうばどん
二 たび〳〵　のさんに　なれて　と
　りあげ
四 のりや〳〵
六 子をたいせつにして　ごしんぞ
　になる

やまのかみ
二 女のくせに大酒のみ　さけのう
　へわるく　のちは　はつちぼうず
四 ていしゆと　てん〳〵かせぎ
　とりあげ
六 きちがひじみた　かんしやくも
　ちてうど　やりて　まつてこい

きむすめ
一 きりやう　のぞみで　花よめ
二 よき人の　目に　かゝり　おめし
　つかひ
五 よき名んだんで　女房

花よめ
一 いつか　しうとめ
三 としとつて　手ならひしせう
五 りはつものゆへ　ごしんぞ

やり手
二 心がけあしく　はつち〳〵と
　あるく　のりや〳〵
四 かゝろ子も　なく　のりや〳〵
六 ていしゆを　おいどの下に　し
　いて　山のかみ

子もり
二 火たきぼうこうの　をさん　ど
　ん　いつかて、なし　子をうんで
　おうばどん
六 しとやか　なので　おすゑ

めかけ
二 しあはせよく　女房
四 用だちは　用で　やりて
六 こゝろ　だてが　よくて　ごしん
　ぞ

おてんば娘
一 そだちが　わるくて　めしもり
　女
三 はすは　ものゆゑ　茶やをんな
五 きりやう　のぞみで　めかけ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

茶屋をんな
二 みもちあしれば　たこくへい
　つて　めしもり
四 はたらき　をはなにかけて　山
　のかみ
六 とし　とりて　やりて

中はたらき
二 ごはんなうゆへ　子もりになる
四 ふしあはせ　ふうふ　わかれて
　おんば
六 さうおうな　ところへ　女房

とりあげ
二 とりあげが　とより　すぎて
　はつち
四 口やかましい　しうとめ
六 金を　ためて　はりいしや

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

おすゑ
一 ほうこうの　むかしこひしき山
　のかみ
三 どういふ　いんねんでか　ちや
　屋をんな
五 おめにとまつて　すぐに　中ろ
　う

おめしつかひ
二 とこひさしくつとめておつぼ
　ね
四 こゝろだてがわるくつて　はつ
　ちぼうず
六 よいおゑをもつてらくゑんき
　よ

お中老
一 しゆびよくおいとまをいたゞ
　き　おいりやさまへ　花よめ
二 出世しておつぼね
五 こしんぞ
六 らくゑんきよ

上り

はつち
このところは　でることならず
いすはり　なりされども
しまひ　には　そだ　てた
むすめが　しゆつせして
らくゑんきよさまより
こうりよくをうける

手習師匠
二 はりいしやにはましだが　おは
　りさん
四 おつぼねほうこう
六 ちやのみともだちの女房

めしもり女
二 とこひさしくつとめてやりて
四 そうどくてごぜとなる
六 こゝろがけがわるくてはつち

おはり
二 ふしあはせではつちぼうず
三 こゝろだてがわるくてやりて
五 山のかみのくされゑん

おさん
二 りちぎゆへ　なかばたらぎ
四 てゝなしこで　おうばどんにで
　る
六 うちなくて玉のこしのごしん
　ぞ

しうとめ
一 よめやむすこをいひり出して
　はつち　りはつものゆへ　ごし
三 そんきものむちひで　とりあげ
五 こゝろだてよくらくゑんきよ

ふり出し
一 きむすめ　四 女房
二 おてんば娘　五 めかけ
三 花よめ　六 おめしつかひ

おどり子娘
人うまれてをさなき　ときはおや
の　そだてに　ありと　いへども　た
とへて　いへば白き　いとのごとし
ものにそまり　しだいにて
いろ〳〵になりとも名ゑうか〳〵
とはせましきなり　一代のふりだ
しをつゝしむべし

ごぜ
このところは　でることならずめ
がふじゆうで　りやうちぎん　を
つかひ　おどり子へ　かへり　あらた
に　ふりだし　でなをし〳〵

のりうり
一 ごしが　まがつて　はつち〳〵
三 ゑんぐわな　めがつぶれて　こ
　ぜ
五 人にやつた子が　りつこんして
　おもひがけなく　らくゑんき
　よ